

ワイドパワー®

粒剤
フロアブル

田んぼの草の大掃除。



*移植水稲のみ



残った雑草をまとめて一掃!

- イネ科雑草も広葉雑草もまとめて防除可能!
- 薬剤処理後も2週間程度の残効性を有します!



有効成分

ワイドパワーはペノキススラムとベンタゾンの2つの有効成分を含有した水稲用中・後期除草剤です。

ペノキススラム

除草剤分類 2

- ・スルホンアミド系に分類され、作用機作は植物内で合成される分枝鎖アミノ酸(パリン、ロイシン、イソロイシン)の生合成をつかさどるアセト乳酸合成酵素(ALS)の阻害です。
- ・殺草スペクトラムが広くイネ科雑草、一年生雑草、多年生雑草に有効です。
- ・塊茎で増えるオモダカ、クログワイ等の雑草防除に有効です。
- ・土壌処理効果により2週間程度の残効性を有します。



ベンタゾンナトリウム塩 (ベンタゾン)

除草剤分類 6

- ・主な作用機作はHill反応阻害による光合成阻害です。
- ・殺草スペクトラムが広く、一年生雑草(イネ科を除く)多年生雑草に有効。ホタルイ、オモダカなどの問題雑草にも高い効果を示します。
- ・SU剤などのALS阻害剤に抵抗性を示す雑草種にも有効です。
- ・分けつ、分枝、分株を開始している生育期の雑草にも高い効果を発揮します。

剤型名		ワイドパワー粒剤	ワイドパワーフロアブル
登録番号		農林水産省登録 第22513号	農林水産省登録 第24956号
有効成分	ペノキススラム	0.12%	0.67%
	ベンタゾンナトリウム塩 (ベンタゾン)	11.0%	35.4%

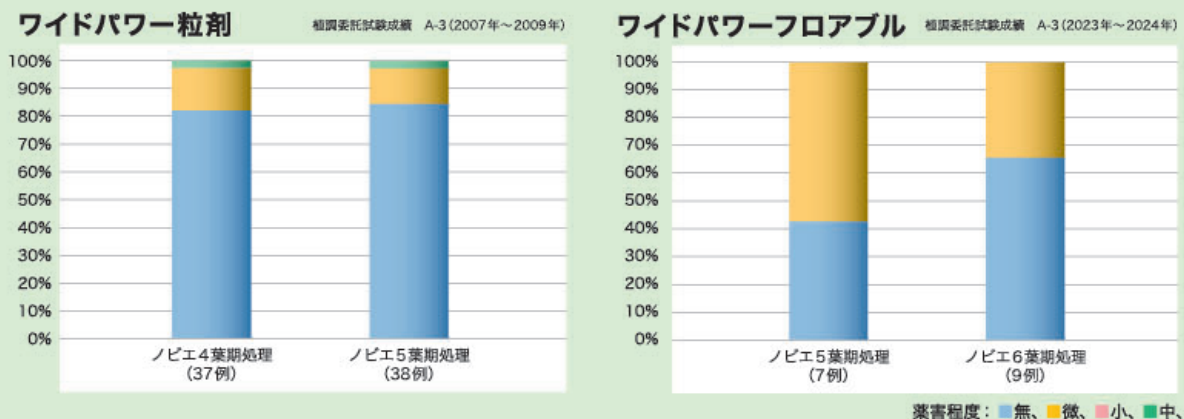
特長

1. 1剤でノビエをはじめとしたイネ科雑草、一年生広葉雑草、多年生広葉雑草まで幅広く防除可能です。
2. 土壌処理効果も有し、処理後2週間程度の残効性も兼ね備えます。
3. 塊茎で増えるオモダカ、クログワイ等の塊茎や根部に作用し、塊茎抑制効果に優れます。
4. 水口付近や田面が高い所などの局所的な残草に部分散布することも可能です。(落水散布)

散布の目安(移植水稲)

製品名	ノビエ	ホタルイ	ヘラオモダカ	ミズガヤツリ	ウリカワ	オモダカ	クログワイ	シズイ	コウキヤガラ	ヒルムシロ	セリ
ワイドパワー粒剤	5葉期まで	5葉期まで	5葉期まで	5葉期まで	5葉期まで	矢じり葉抽出期まで	草丈20cmまで	草丈20cmまで	—	生育期まで	—
ワイドパワーフロアブル	6葉期まで	草丈20cmまで	—	草丈20cmまで	4葉期まで	矢じり葉5葉期まで	草丈30cmまで	草丈30cmまで	草丈30cmまで	発生盛期まで	増殖期まで

委託試験成績 水稲に対する安全性(移植水稲)

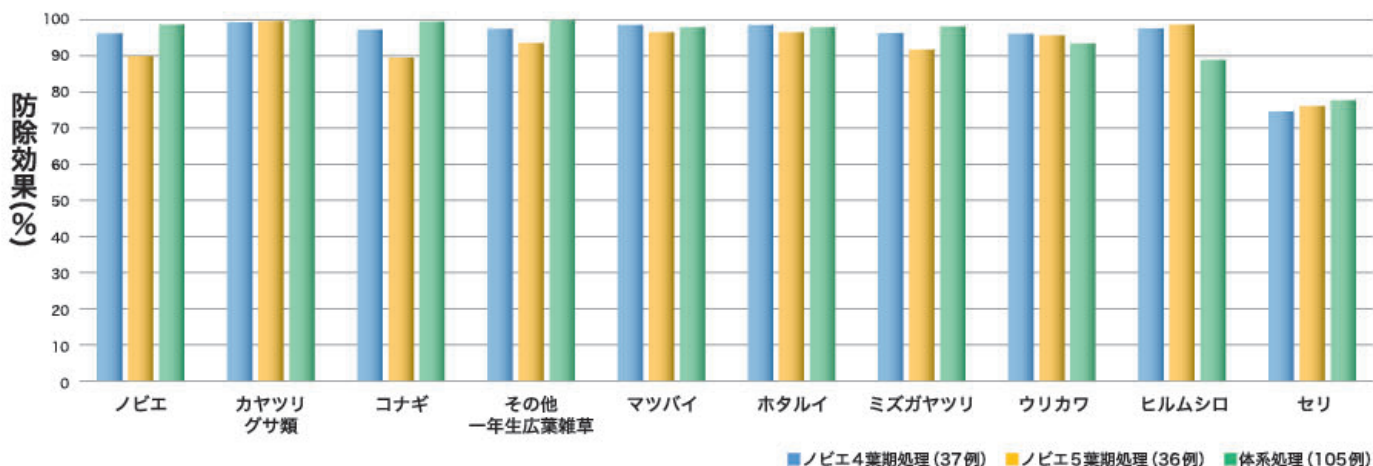


ワイドパワーの移植水稲に対する薬害程度はおおむね無～微となった。

委託試験成績

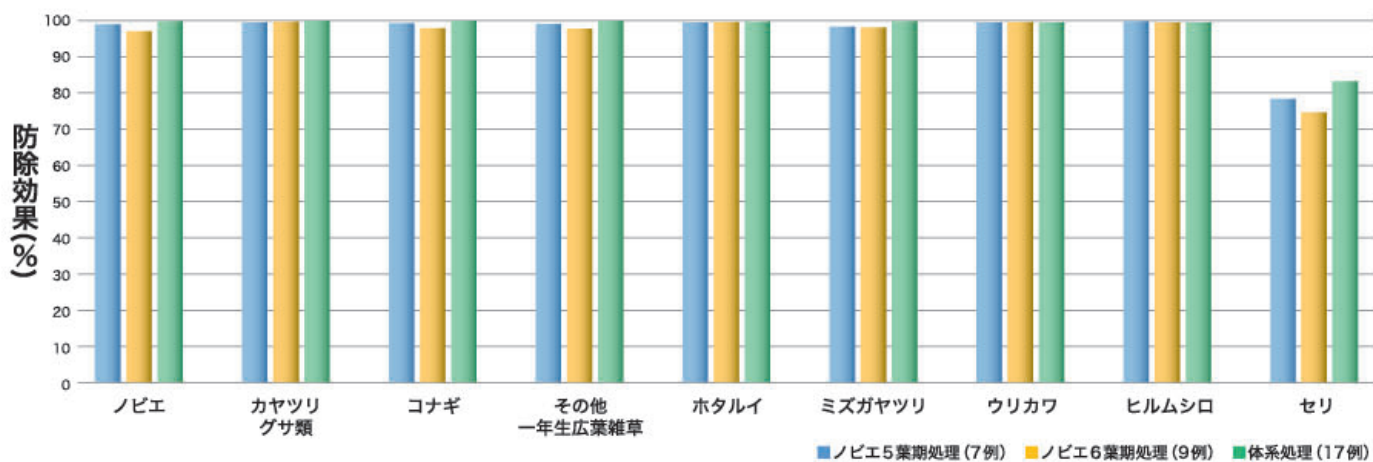
ワイドパワー粒剤

植調委託試験成績 A-3 (2007年～2009年)
各処理時期の試験事例のうち5例以上で発生があった雑草種
体系処理は移植後20日以降の処理時期の事例を抜粋



ワイドパワーフロアブル

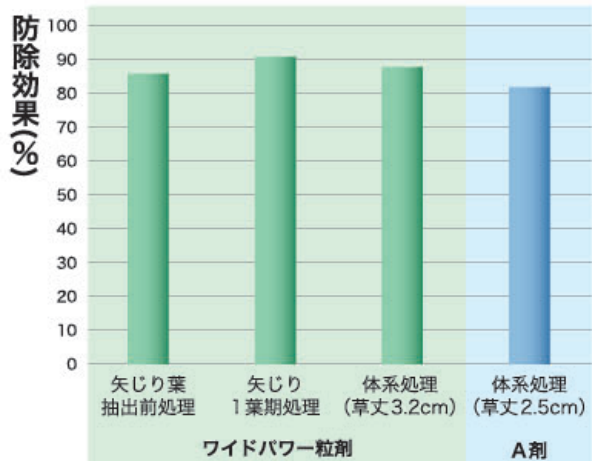
植調委託試験成績 A-3 (2023年～2024年)
各処理時期の試験事例のうち5例以上で発生があった雑草種を抜粋
体系処理は移植後20日以降の処理時期の事例を抜粋



オモダカに対する効果

ワイドパワー粒剤

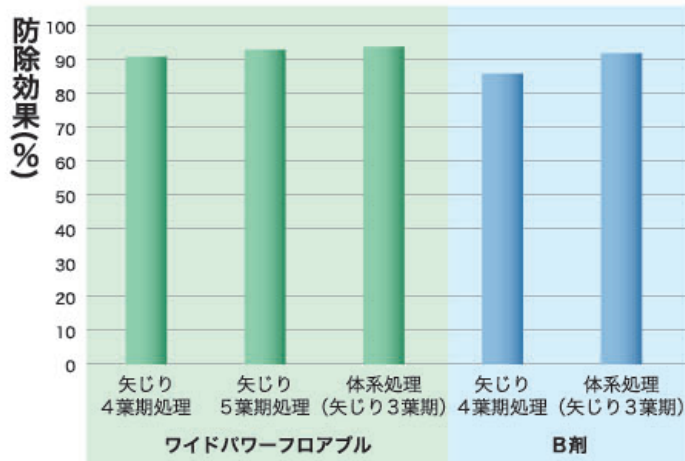
植調委託試験成績 A-4オモダカ (2010年)



試験地：植調新潟試験地 移植日：5月15日 調査日：移植80日後
薬剤処理：矢じり葉抽出前 (移植30日後)、矢じり葉1葉期 (移植34日後)
体系処理 (移植35日後)
体系処理の前処理剤：ユニハーブフロアブル (移植3日後処理)
調査方法：株数/m² × 草丈の無処理対比 (%)

ワイドパワーフロアブル

植調委託試験成績 A-4オモダカ (2023年)



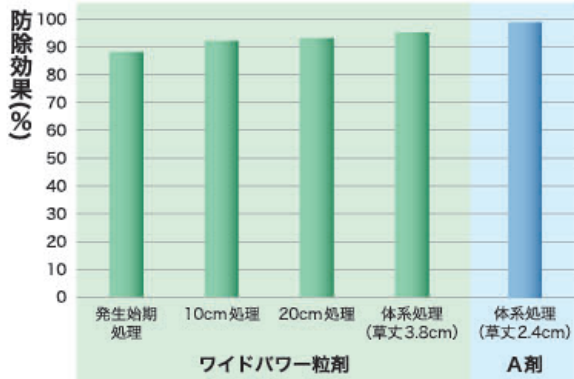
試験地：植調千葉試験地 移植日：4月12日 調査日：移植80日後
薬剤処理：矢じり4葉期 (移植40日後)、矢じり5葉期 (移植45日後)
体系処理 (移植40日後)
体系処理の前処理剤：カリユード1キログラム (移植5日後処理)
調査方法：株数/m² × 草丈の無処理対比 (%)

委託試験成績 各草種への効果

クログワイに対する効果

ワイドパワー粒剤

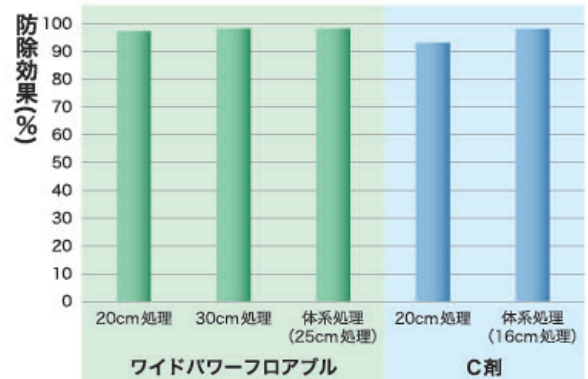
植調委託試験成績
A-4クログワイ (2009年)



試験地: 植調新潟試験地 移植日: 5月16日 調査日: 移植76日後
 薬剤処理: 発生始期処理 (移植18日後)、10cm処理 (移植28日後)
 20cm処理 (移植32日後)、体系処理 (移植40日後*)
 *A剤は移植35日後
 体系処理の前処理剤: 草苗フロアブル (移植3日後)
 調査方法: 株数/㎡×草丈の無処理対比 (%)

ワイドパワーフロアブル

植調委託試験成績
A-4クログワイ (2023年)

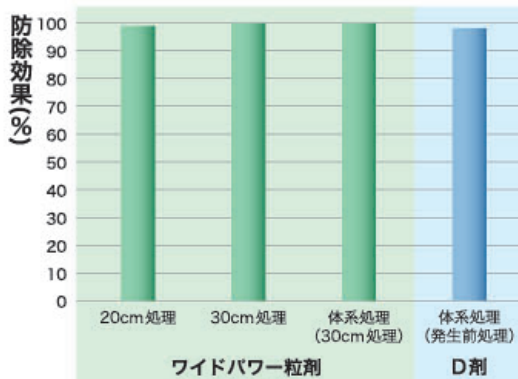


試験地: 植調新潟試験地 移植日: 5月28日 調査日: 移植74日後
 薬剤処理: 20cm処理 (移植22日後)、30cm処理 (移植24日後)
 体系処理 (移植30日後)
 体系処理の前処理剤: 草苗フロアブル (移植6日後)
 調査方法: 株数/㎡×草丈の無処理対比 (%)

シズイに対する効果

ワイドパワー粒剤

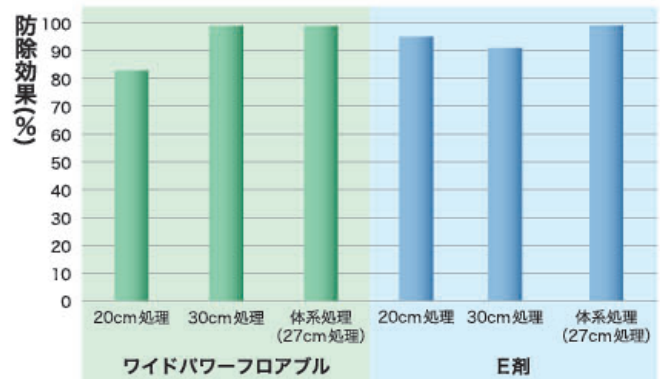
植調委託試験成績
A-4シズイ (2012年)



試験地: 岩手県農業研究センター 移植日: 5月10日 調査日: 移植70日後
 薬剤処理: 20cm処理 (移植21日後)、30cm処理 (移植32日後)
 体系処理 (移植53日後*) *D剤は移植29日後
 体系処理の前処理剤: テマカットフロアブル (移植当日)
 調査方法: 株数/㎡×草丈の無処理対比 (%)

ワイドパワーフロアブル

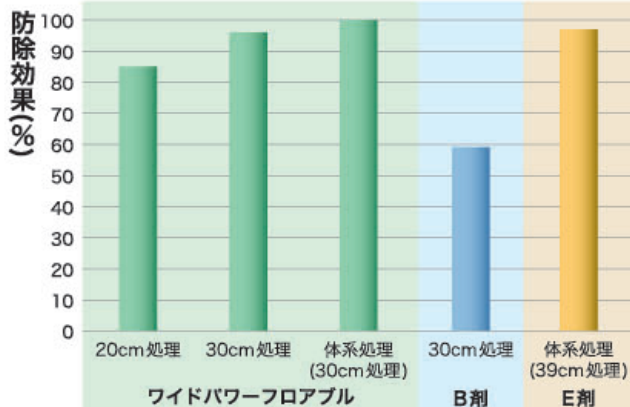
植調委託試験成績
A-4シズイ (2023年)



試験地: 植調青森試験地 移植日: 5月26日 調査日: 移植78日後
 薬剤処理: 20cm処理 (移植23日後)、30cm処理 (移植32日後)
 体系処理 (移植40日後)
 体系処理の前処理剤: パッチリLXジャンボ (移植8日後)
 調査方法: 株数/㎡×草丈の無処理対比 (%)

コウキヤガラに対する効果

植調委託試験成績 A-4 コウキヤガラ (2023年)

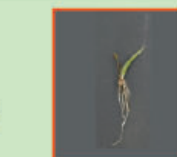


試験地: 植調千葉試験地 移植日: 4月14日 調査日: 移植75日後
 薬剤処理: 20cm処理 (移植14日後)、30cm処理 (移植21日後)
 体系処理 (移植40日後)
 体系処理の前処理剤: パッチリ1キコ粒剤 (移植4日後処理)
 体系処理の前処理剤 (E剤区): プライオリティ1キコ粒剤 (移植4日後処理)
 調査方法: 株数/㎡×草丈の無処理対比 (%)

ワイドパワーの塊茎抑制効果

北興化学工業株式会社社内試験 (2010年)

オモダカ
草丈15cm処理

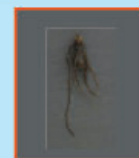


ワイドパワー粒剤処理区



無処理区

クログワイ
草丈15cm処理



ワイドパワー粒剤処理区



無処理区

試験場所: 北興化学工業株式会社開発研究所 温室
 供試薬剤: ワイドパワー粒剤 試験規模: 1/6500aポット
 供試雑草: オモダカ、クログワイ 塊茎埋め込み深度: 3cm
 湛水深: 3cm 薬剤処理: 草丈15cm処理
 調査方法: 埋め込み90日後に各雑草を引き抜き、地下部の塊茎の発生状況を調査

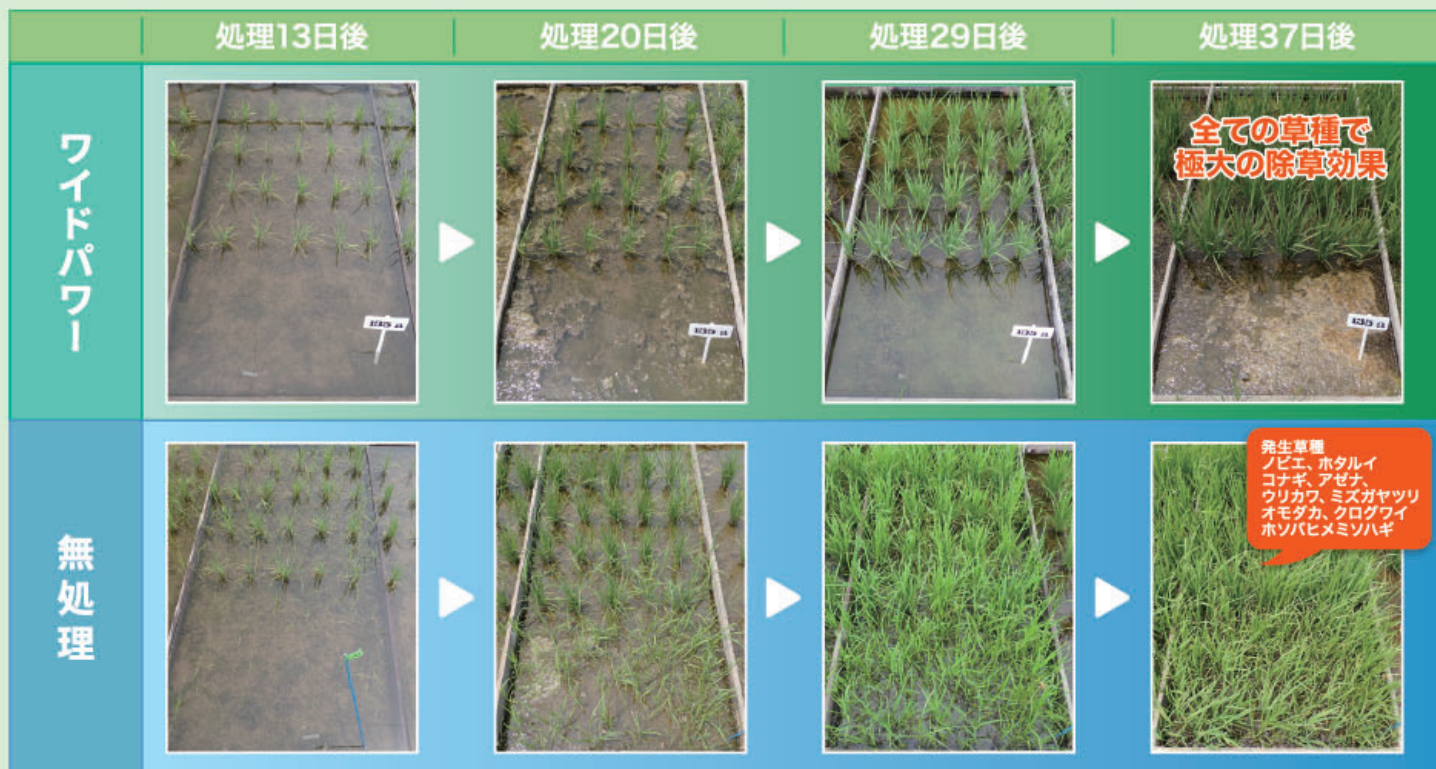
社内試験事例

北興化学工業株式会社 開発研究所 (2023年)

供試薬剤: ワイドパワーフロアブル
 使用薬量: 500ml/10a 希釈水量: 100L/10a
 移植日: 4月11日 薬剤処理日: 5月2日

処理時の雑草葉齢および草丈

ノビエ: 3.1葉期13cm ホタルイ: 2.5葉期2.0cm コナギ、アゼナ: 発生前
 ホソバヒメミソハギ: 子葉0.3cm ウリカワ: 2.3葉期3.6cm ミズガヤツリ: 2.3葉期11.9cm
 オモダカ: ヘラ葉2.3葉期9.8cm クログワイ: 5.5葉期4.0cm



ワイドパワーをよく効かせるには

処理前

晴天が連続して続く日を
処理日に選びましょう。



処理後2日以内に
降雨があると効果
が不十分になる
おそれがあります。

落水状態 (足跡に水が残る程度) にして
処理してください。

本剤は水の移動に伴う移行性が大きいので、一般に水深が浅いほど効果が安定します。



処理前には水口、水尻を止める

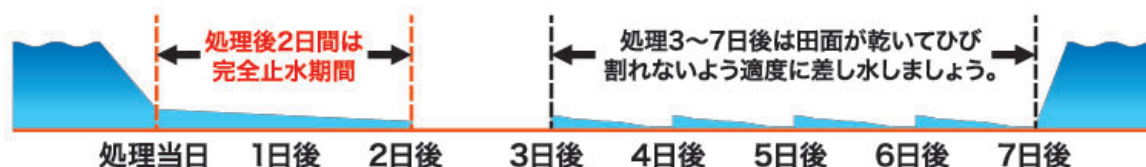


足跡に水が残る程度

処理後

処理後、**2日間はそのままの状態を保ち**、入水、落水、かけ流しをしないでください。
 3~7日後は田面が露出し、乾いてひび割れないよう適度に差し水してください。
 7日以降は通常の水管理に戻します。

処理後7日間は田面水を落水、かけ流しはしないでください。



ワイドパワー粒剤を使用する場合

1 作付面積に応じて使用量を計算します。

作付面積	使用量
1a	300g
5a	1.5kg
10a	3kg
50a	15kg
1ha	30kg

2 所定の薬量を均一に散布します。



動力散布機等を使用し、所定量をまきむらがないよう均一に処理する。

ワイドパワーフロアブルを使用する場合

1 作付面積に応じて使用量を計算します。

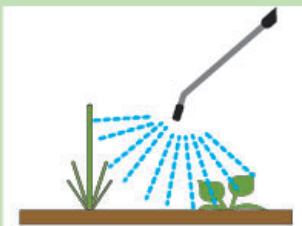
作付面積	薬量	希釈水量
1a	50ml	10ℓ
5a	250ml	50ℓ
10a	500ml	100ℓ
50a	2.5ℓ	500ℓ
1ha	5ℓ	1000ℓ

2 散布液を調製します。

- ①容器に必要な散布液量よりも少なめの水を入れます。
- ②計量した薬剤を加えてよく混ぜてください。(使用前には容器をよく振ってください)
- ③最後に規定の水量になるまで水を加えてよく混ぜてください。

※調製する散布液には展着剤は加用しないでください。
また散布液は作り置きせず必要量のみを調整し、速やかに使いきってください。

3 散布液を雑草にムラなく散布してください。



雑草が大きくなりすぎると効果にフレが出ますので各雑草の散布目安を参考に処理を行ってください。

4 雑草だけでなく土壌にも薬液をかける。

土壌表面で処理層を形成し、2週間程度の土壌処理効果が期待できます。



各剤を部分散布する場合

■ : 散布予定部分
▼▼▼ : 雑草発生部分

1 雑草発生部およびその周辺部1m程度を含めた散布予定部分の面積を決めて、散布量を計算します。

散布時はごく浅い湛水状態
(水深1cm程度)

雑草発生部の周辺部1m程度まで散布

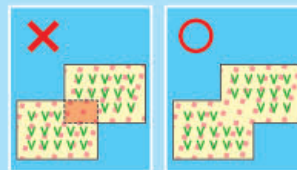


・粒剤の場合1㎡当り3gを散布する。

・フロアブルの場合1㎡当り散布液100ml(200倍相当)を散布する。

処理時は規定量を守って使用してください。
過剰散布は薬害の原因になります。

2 同一ほ場内で複数カ所の部分散布を行う場合は、散布カ所が重ならないように散布予定部分を設定してください。



隣接箇所はまとめて1か所として散布しましょう。

3 本剤の使用回数は1回のため、同一ほ場内で複数カ所に部分散布する場合は同日中に散布してください。



同日中であれば圃場全体で1回とカウントします。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
●使用後の空袋、空容器は圃場等に放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

